

# 令和7年 春季昇段級試験

6月5日（木）必着

## 一般・高校《試験概要》 ※小・中学生の試験要項はP19参照。

・出品上の注意は支、部長・個人会員宛送付の「春季昇段級試験要項」をご参照ください。

### ■漢字部

類	段級	課題① (書体書風自由)	課題② 臨書 (任意の箇所)	合計
A ※	現準師範 ～八段	半切2枚 (2書体)	・九成宮醜泉銘 ・集字聖教序 ・書譜 各6文字	半紙各1枚 計3枚
B	現七段 ～二段	半切1枚		半紙1枚 半紙3枚
C	現初段 ～新出品	半紙2枚 (2書体)	・九成宮醜泉銘 5文字	半紙1枚 半紙3枚

受験料 (各部共)	
A類	5,000円
B類	4,000円
C類	3,000円

※【A類特例：75歳以上の方】A類の課題①半切1枚・課題②臨書半紙3枚及び、C類の課題①半紙1枚（計5枚）でも可。

### ■仮名部

	段級	課題① (散らし書き)	課題② 臨書 (任意の箇所)	合計
A	現準師範 ～八段	半切1枚 半紙1枚	・高野切 第三種 ・関戸本 古今集 各1頁	半紙各1枚 計2枚 半切1枚 半紙3枚
B	現七段 ～二段		・高野切 第三種 1頁	半紙1枚 半紙2枚
C	現初段 ～新出品	半紙1枚		半紙2枚

●料紙使用可。臨書用の料紙が半紙より小さい場合は、半紙に貼って提出。

### ■硬筆部課題

	段級	課題①	課題②	合計
A ※	現準師範 ～八段	楷行草 (3書体)	仮名部の 課題①を 新硬筆用紙 に書く (書体自由)	①A4用紙 3枚 ②硬筆用紙 1枚
B ※	現七段 ～二段	楷行草 (3書体)	—	A4用紙 3枚
C	現初段 ～新出品	楷行 (2書体)	—	A4用紙 2枚

●A4用紙は罫線の無いものに限る。

●硬筆用紙は、新サイズを使用のこと。

※【A・B類特例：75歳以上の方】

A類：課題①任意の2書体と課題②でも可。(計3枚)

B類：課題①任意の2書体でも可。(計2枚)

## 《課題①》

( )内はサイズ。訳は18頁。

### 漢字部 (半切)

園梅拆甲迎春笑 庭草抽心待節芳  
 えんばいしう ひらはるむか ちせうしん たいせうしん  
 園梅甲を拆き春を迎えて笑い、庭草心を抽  
 き節を待つて芳し。  
 (金立之)

### 漢字部 (半紙)

春風入萬物 春風萬物に入る  
 しゅんぷうにばんぶつ しのんぷうばんぶつ

### 仮名部 (半切・半紙)

桜花 ささきにけらしも  
 さくらばな ささきにけらしも  
 あしひきの山の峡より  
 あしひきの 山の 峡より  
 見ゆる白雲  
 しらうん 見ゆる白雲  
 古今和歌集五十九番 紀貫之

### 硬筆部 (A4用紙)

#### 枕草子

清少納言

夏は夜。月の頃はさらなり。闇も  
 なほ、螢のおほく飛びちがひたる。  
 また、ただ一つ二つなど、ほのかに  
 うち光りて行くもをかし。雨など降  
 るもをかし。

参考『枕草子』ワイド版 岩波文庫

令和七年 春季昇段級試験

## 小・中学生 《試験概要》

※幼稚園児はありません。

■毛筆部 課題（新学年で出品）

中学	遠い雷鳴	※書体書風自由
小六	緑の大地	※行書可
小五	親しい友	
小四	明るい光	
小三	あつい夏	
小二	小川	
小一	ほん	

### 〈段級区分・提出用紙〉

D類 現八段～五段地 ……半切

E類 現四段天～準初段……半切四分の一

F類 現1級天～新品……半紙

### ■硬筆部

・二十字程度の任意の字句を規定の硬筆用紙  
(新)に書く。

・小学生は鉛筆、中学生はペンを使用。

・消しゴム使用は不可。

・段級のD・E・F区分は毛筆部と同じ

受験料 各600円

令和七年 春季昇段級試験  
課題解説（一般・高校）・出品上の注意

漢字部半切課題

園梅拆甲迎春笑 庭草抽心待節芳

（金立之）

読み

園梅甲を拆き春を迎えて笑い、庭草心を抽き節を待つて芳し。

訳

園内の梅は蕾を破つて春を迎えて咲き、庭前の草は萌え出て時節を迎えて芳香を放つ。

作者

金立之 9世紀初頭、唐に留学した新羅人。

出典『註墨場必携』大文館書店

漢字部半紙課題

春風入萬物

読み

春風萬物に入る

訳

春風一たび吹き渡つて、天地間のあらゆるものは蘇生した。

出典『新註墨場必携』大文館書店

仮名部課題

桜花 さくらばな

あしひきの山の峽より

見ゆる白雲

古今和歌集五十九番 紀貫之

訳

桜の花が咲いたらしい。あの山あいに白い雲のように見えている。

作者

紀貫之：平安時代前期から中期にかけての貴族・歌人。

硬筆部課題

枕草子

清少納言

夏は夜。月の頃はさらなり。闇もなほ、

螢のおほく飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

参考『枕草子』ワイド版 岩波文庫

訳

夏は夜（が良い）。月が出ている頃は言うまでもなく、（月が出ていない）闇夜もまた、螢が多く飛び交っている（様子も良い）。また（たくさんではなくて）、ほんの一匹二匹が、ほのかに光って飛んでいくのも趣がある。雨が降るのも趣があつて良い。

作者

清少納言。平安中期、中宮定子に仕えた女房。

枕草子とは

九九六年頃一部成立。中宮定子の後宮の文化精神を巧みに書き留めた隨筆。

出品上の注意

提出メ切 六月五日（木）稲葉宅必着

結果発表 七月号

出品方法（名簿作成・出品料納付等）

詳細は、支部長・個人会員に送付の「春季昇段級試験要項」をご参照ください。